

だ い ず 通 信 令和6年 第3号

連作が続くとマメシクイガの被害が発生しやすくなりますので、
できるだけ残効性の長い殺虫剤を使用し、適期散布に努めましょう。

1 生育状況

- ・ 6月上旬を除き気温は平年を上回り、は種後の作業は順調に進んだ。
- ・ 順調に生育しており、湿害等の発生はみられない。
- ・ 7月26日時点の生育観測ほの葉数は、6月上旬は種で11～13葉期、6月下旬は種（晩播狭畦栽培）で6～7葉期である。

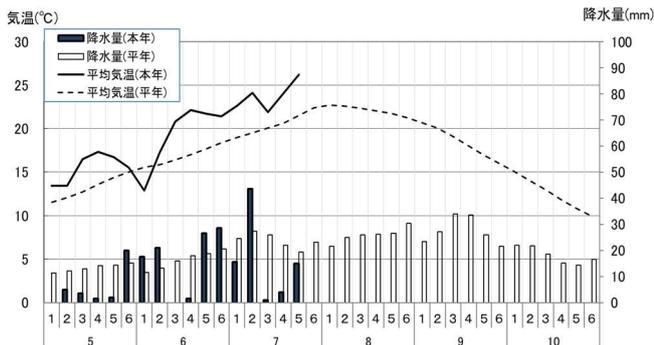


図-1 平均気温と降水量

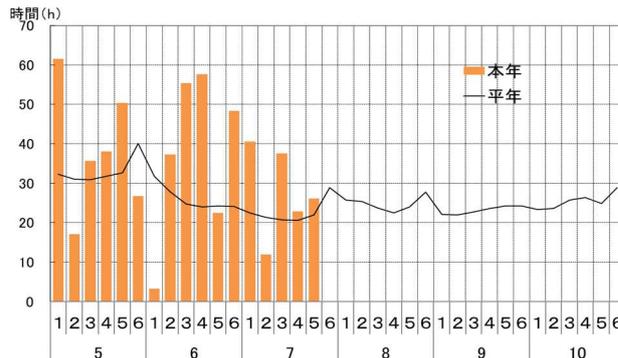


図-2 日照時間

表-1 生育状況調査結果

地点名	年度	生育ステージ				出芽本数 (本/m ²)	7月10日	
		は種期	出芽期	開花期	成熟期		草丈 (cm)	葉数 (枚)
県生観	本年	6月9日	6月15日	7月27日		14.8	54.6	7.3
	平年	6月7日	6月14日	8月4日	10月12日	14.1	46.6	6.5
下切田	差・比	遅2日	遅1日	早8日		106%	117%	112%
地区生観	本年	6月9日	6月15日	7月26日		19.4	33.6	5.0
	平年	6月1日	6月9日	7月29日	10月12日	17.3	37.6	5.4
赤沼	差・比	遅8日	遅6日	早3日		112%	89%	93%
晩播狭畦	本年	6月27日	7月2日			33.7	11.7	0.2
	平年	6月25日	7月2日	8月10日	10月19日	26.9	14.3	1.5
七戸町	差・比	遅2日	±0			125%	82%	13%

平年は、県生観：令和3～5年、地区生観：平成22～令和5年、晩播狭畦：平成28～令和5年

2 食葉性害虫の防除

(1) 8月中旬までの防除

- ・ ウコンノメイガ等の食葉性害虫の発生が多い場合は、必要に応じて薬剤を散布する。

(2) 8月下旬からの防除

- ・ マメシクイガは、連作2年目以降で被害が拡大しやすいため、原則として2回防除を行う。(転換初年目のほ場は1回防除で可)
- ・ 紫斑病は子実品質を低下させるため、1回目のマメシクイガ防除時に紫斑病に登録がある殺菌剤を同時散布する。
- ・ カメムシの防除は、1回目のマメシクイガ防除時にカメムシに登録のある薬剤を選択する。
- ・ 薬剤耐性菌や薬剤抵抗性害虫の発生を抑えるため、1回目と2回目の散布は剤の種類を変える。また、年1回防除の場合は、使用する薬剤を毎年変更する。